

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100096		
法人名	株式会社ブルーム		
事業所名	グループホームさくら(みずいろ)		
所在地	岩手県釜石市甲子町5-2-4		
自己評価作成日	平成28年12月6日	評価結果市町村受理日	平成29年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2016.022.kani=true&ji.gvosvoQd=0391100096-00&Pr.efQd=03&Ver.sionQd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年1月12日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と利用者の関わりを大事にしている。医療機関との連携をとり、ご家族への報告を欠かさない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切にされた理念の実践に努めた支援が行われている。地域の盆踊りや運動会・日帰り旅行への参加や、バス停の掃除などに積極的に取り組んでいることで、ホームで行われる夕涼み会に、地域の方々30名くらいの参加があったり、防災訓練では多い時で10名、昨年は4名の協力があつた。災害時の地域協定に基づき、事前に説明会が行われている。また、職員の年齢層のバランスもよく、若い職員が資格習得に取り組んでいる。利用者主体となった暖かな雰囲気ホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示して、職員が見れるようになっている。	理念は、開設時にリーダー的な職員で話し合い作られた。事務所に掲示され、理念の実践として、地域交流が積極的に支援されている。また、訪問診療の利用等により、医療連携が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加わり、会館清掃や総会や懇親会、運動会のグラウンド整備などに参加して地域の方々と交流している。	町内会に加入し、地域行事に利用者・職員ともに参加している。地元で行われている運動会の参加賞が野菜や米であるのも素朴な土地柄と思われる。利用者の方々が、自然な形で受け入れられている。また、納涼会の前に婦人部より15名の草取りのボランティアがあり、そのお返しとしてバス停の掃除をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会行事のひとつである研修会に参加し、発表の場を来年2月に予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故、ヒヤリハット報告を行い、防災訓練や行事についても反省点などを話し合い意見を頂いている。推進委員の方々は、利用者との食事会や行事、防災訓練に参加されている。	運営推進委員と利用者との食事会では、薄味であるが一品だけしっかりした味付けで、全体のバランスが取れているとの感想をいただいた。防災訓練や事故報告として、深爪による出血などの報告を行い、感じたことや意見を話していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員で、委員会は欠かさず出席して頂いている。必要時は包括支援センター及び保護係との連絡・調整などを行い、権利擁護担当者が毎月来所し、本人との面談を行っている。	包括支援センターの職員より、市で行われる研修の情報を得ている。また、権利擁護担当者が毎月来所している。顔の見える関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行っている。身体拘束をしないケアを行っている。現在身体拘束者はなし。	社内全体で、毎月2回事例検討会を行っている。身体拘束委員会により、日常生活の中でどれが身体拘束に当たるか話し合っている。また、職員間でお互いに注意出来る関係となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行っている。心理的虐待について、知らず知らずのうちに言葉の暴力にならないか、気が付いたらその場で注意するよう心掛けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームさくら(みずいるユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が全て理解しているとはいえないが、利用はしている。権利擁護を利用している利用者が数名いて、担当者の面会が毎月あるため、全く分からない職員はいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読みあわせをして説明し、疑問な所はないか伺っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望は、職員で話し合う。ご家族の代表が運営推進委員になっている。	ご家族から、「外に出る機会を多くしてほしい。」との要望があり、話し合いを持ち美容院に出かける機会を設ける等、その時々で検討し対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時に話せる機会がある。管理者が社内の運営会議に参加し、発言の機会がある。	早番の時間帯の見直しにより、夜勤者の休憩時間の確保が出来るよう見直しが行われている。また、代表者と職員の個人面談が行われ、意見や提案が直接話せる機会となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が毎月全員のタイムカードの内容を確認している。必要時は職員と面談し、相談を受けている。毎年職員旅行や運動会を開催。今年は参加出来なかったが、釜石の夏祭りに参加している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、事例検討会と研修会を実施。外部の研修会に参加し、研修会の場で伝達講習を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改めての交流はないが、外部研修の時に意見交換出来る時もある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がうまく表現出来ない時は、前任の介護支援専門員に尋ねながら、本人の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時は勿論の事、その後も機会があれば遠慮なく話して頂き、良い関係を築いていきたいという気持ちを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求められる支援を見極められるよう努め、可能な方はご家族にも協力して頂き、スタッフが情報を共有して支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションで自然な会話ができるよう勤め、能力に応じて家事を一緒に行っている。片付けが終わると、ホールにいる方全員で一服するのが日課になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、その都度ご家族と連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さんが子供を連れて面会に来た時に、リビングで過ごす他の利用者も喜んで賑やかに楽しんでいる。入所してから馴染みになった床屋さんや、ヤクルトの配達員の方が来るのを楽しみにしている。	近隣から入居されている方は、友達が面会に来たり夕涼み会にも来られている。以前から通っていた美容院に送っていき、終わったら電話をいただき迎えに行っている。ご家族対応で買い物に出かけたり、自宅への外泊もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたいざこざには、職員が関わりながら、個々の性格を理解し、孤立させないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った方から、月1回のペースで電話が入っており、何度か面会に行き、傾聴に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの依頼により、購入しているものを保管したり、出したり、希望に沿えるようにしている(梅干、ゼリー、ヤクルト等)。収集癖がある方がタンスに色々な物を入れるが、衛生に気を配りながら、気分を害さないように整理を行っている。	利用者の表情やうなずきにより、意向を伝えることが困難な方の希望に添えるよう対応している。また、入浴や夜勤時間帯で、職員が利用者の話をよく聞き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	例えば、パンツ(リハビリパンツ)とシャツで寝る習慣の方はそのままトイレに出てくるが、やめさせる事はせず自然に過ごしていただき、他の方の目に触れる時は、相手の方の視線を逸らす支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態を観察し、変化がある時は申し送りをし、職員全員が周知して支援するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会社全体で行っている事例検討会と研修会の集まりを利用して、終了後にグループホームの職員でケースカンファレンスとミーティングを行っている。	介護計画は、カンファレンスの際に皆で話し合い、モニタリングはケアマネジャーがまとめている。面会時に家族より意向を聞き取り、計画に盛り込んでいる。身体状況の変化等について、介護職員よりその都度報告があり検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録しているが、記録だけではなく申し送りにつなげている。ただ、日課(食事、トイレなど)が主になってその瞬間の変化とか特記が書かれていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応。白内障の手術をする入居者のご家族が遠方に在住のため、当日時間までに来れなかったが、当方で手術前後の対応を行った。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームさくら(みずいるユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が敷地内の草取りをしてくださったり、町内会活動に参加(運動会、盆踊り、清掃活動、温泉旅行)にも参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の同意のもと、定期的な訪問診療を受けている(必要時、緊急時の往診もあり)。2名の方は入所前からのかかりつけ医を継続。必要時には専門医への通院をしている。	本人や家族の同意を得て、訪問診療医を活用している。訪問診療を利用している利用者は15名、以前からのかかりつけ医を利用している利用者は3名で、そのうち家族対応は1名、他の2名は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師に、必要時毎に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側へ情報提供している。入院中は、ほぼ毎日面会に行き、様子を伺った。退院時は情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医との話し合いの場を設定し、職員も参加。ご家族、本人の希望に合わせて対応を行った。	体調の変化のあった時に、家族、主治医、職員で話し合いを持っている。	その時々で意向は変わることも考えられるが、利用者の終末期の意向は、本人が元気な時から行うことが望ましいと思われる。また、入居時に出来る事、出来ない事をご家族に伝えることで、利用者や家族がより安心できるよう取り組みが行われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務のため参加出来なかった職員もいたが、ほとんどの職員が救命救急の受講をしている。容体の変化した場合は、主治医や管理者に連絡が取れる体制にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や地域住民と共同しての防災訓練を実施。町内会と災害時の地域協定を締結。火災発生時は自動的に町内会長に緊急通報が入る仕組みになっている。	夜7時に避難訓練を行い、その反省から外灯を設置している。災害時の地域協定を締結し、事前に避難訓練の説明会を持ち、昨年は地域から4名の協力があった。階段を昇降できる車椅子を利用した避難訓練が行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームさくら(みずいろユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を毎年実施。日々の業務の中でお互いに注意しあうよう努めている。	利用者の個々に合わせた声掛けに努めている。また、ズボンを汚してしまう等何かしら失敗があった時には、他の利用者に気付かれないよう配慮し、ご本人が安心できる声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく表現出来ない方は、希望を汲み取るように観察し、支援するように努めている。はっきりと希望を言える方は出来るだけ浴えるように、難しい時は分かっていたり努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間、好きな時間までテレビを見ている。食べたいお菓子の購入、自室に冷蔵庫を入れ、好きな時に飲み物などを飲んでいる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は好きな服を着ている。毎日、お化粧をしている方がおり、口紅はこだわりの色をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が手伝いをして、その人に合った食事形態を提供している。食器洗いや片づけを一緒に行っている。年に一度、近くにある創作レストランで外食をしている。	献立は1、2階別々で、調査時、1階は和食、2階は洋食のメニューだった。道の駅にラーメンを食べに行く予定がある。ホルモンが食べたいと希望があり、食べるのが大変ではないかと心配もあったが、利用者は喜んで食べていた。茶碗拭きやタオルたたみを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時のお茶の時間にこだわらず、水分補給を行っている。市の栄養士に献立を提供し、栄養指導をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。一人で出来ない方は介助をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームさくら(みずいるユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿をチェックし、パターンの観察。個々に応じてトイレ誘導を行っている。	リハビリパンツが9名、夜間のみおむつ対応が1名、他の方は布パンツを使用している。日中失禁が少なくなり、軽失禁パットに変更した利用者もいる。利用者は全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れている。水分補給をしている。必要時、または希望で機能性飲料の常飲。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、曜日で設定しているが、月～土まで毎日入浴時間があり、状況によってはいつでも入浴が出来る。	1階はバスリフトが設置されており、1名利用している。2階の利用者は、1名が現在利用を検討中となっている。入浴拒否がある時は、次の日に変更するなど柔軟に対応している。同性介助の希望は2名あり、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように気をつけながらも、自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時は必ず申し送り、職員全員が把握している。欠薬、誤薬防止のため、二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物(お菓子、パンなど)希望があればその都度購入している。一緒に買い物に行く時もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と一緒に外出や外食、同社のデイサービスのイベントに参加(合同の運動会におにぎりを持って参加、地域の温泉旅行に2名参加など)。	2カ月に1回、社内のデイサービスのイベントに参加している。暖かい時は、散歩や花見・釜石観音等に出かけている。また、1～3ヶ月に1回、洋服やおやつを買いに出かけている利用者もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームさくら(みずいるユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	部屋での保管は出来ないことになっているが、必要時にはいつでも使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったらその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度や光の調整。事務所や台所前のカウンターが低くて、職員とも会話しやすい。行事が季節に合った飾りつけをしている(クリスマスツリー、お雛様など)	利用者の書初めや塗り絵が展示しており、水木団子をホールに飾っていたが、硬くなった団子を食べてしまう心配もあり、ホールから階段の方に移している。お雛様や七夕・クリスマスなど、季節に合った飾りつけを行っている。また、ソファが設置しており、寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲み、ソファで過ごしている時間が多い。自由に自室で休んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、エアコンはホームの設備。その他はそれぞれ自分の物を持参し、配置している(テレビ、ミニテーブル、冷蔵庫、飾り物など)	テレビを持ち込みしている方は1階に3名、2階に5名いる。他に冷蔵庫や椅子・仏壇など持ち込まれている。孫の写真や夫の写真が飾られ、夜間遅くまで居室でテレビを見て過ごされる利用者もおり、利用者個々にその人らしい時間を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの居室からもトイレが遠くない。廊下やトイレに手すりがついている。事務所、台所がオープンになっている。		